

# 新和会

NO 15

27.11.15

## 目次



### 親和会の日取り

- 親和会何処へ行く……………前沢宮内……………(4)
- 親和会の行き方……………野村武雄……………(3)
- 定期懇談会……………宮員多数……………(2)

気胸サークル総会ニュース……………(3)

気胸サークルの皆様へ……………織本正慶……………(7)

健保三年に延長か……………日急情報……………(8)

### 渋谷氏の意見まとめ

- 上北沢の気胸患者として……………白石節男……………(10)
- 迷路を探る……………久納武文……………(13)

復讐の記……………森原登夫……………(17)

売店三ヶ月間の報告……………岡島 誠……………(16)

三人の「友」たち……………M・H 生……………(20)

切られの記……………児島美都子……………(22)

野球チーム結成……………中井 至……………(21)

映画座談会「生きる」を甲心にして……………(23)

晩 秋……………鈴木まよ子……………(15)

朝鮮に平和を……………福井喜久男……………(12)

親和会日誌……………(25)

検察成補表……………(24)

11月号

東京都中野区新井町549番地

織本外科病院内

親和会の日取り



に對する一歩前進の具體案として  
患者が協力して親和会の基礎を踏  
向するといふことが野事である。て  
ていた。患者同志なら、患者なら  
ては分らないよ。な。悩。み。ま。き。け。る  
し。そ。こ。で。悩。み。ま。き。け。る。と。り。上。げ。て。ケ。ー  
ス。ワ。ー。カ。ー。に。選。給。し。て。協。力。し。て。ゆ  
く。こ。と。も。で。き。ま。う。と。思。う。

久納 次に日患の方から組織の  
現状とが、つける利益について御  
説明いたされたら。

岡本 (日患) 日患に入るとい  
うと明日からすぐに利益があると思  
われない。さ。し。し。て。の。ち  
「こ。り。は。一。般。所。の。患。者。が。終。戦。の。ト  
サ。ク。サ。に。い。た。ゆ。づ。け。ら。れ。た。生。活。を  
守。る。た。め。に。立。ち。上。つ。た。か。が。始。め。で、  
現。在。ニ。ッ。ケ。何。の。一。般。所。で。四。五。七  
十。八。の。患。者。が。組。織。さ。れ。て。い。ま。す  
自。宅。の。患。者。も。含。め。て。ゆ。こ。う。と。い。う  
新。ま。け。あ。る。が、い。ま。ま。で。に。二。三  
ヶ。所。し。か。い。こ。く。な。り。今。後。ど。う。い  
う。や。り。方。で。や。つ。て。ゆ。く。か。が。向。輪。に  
な。つ。て。い。る。九。州。で。は。健。康。會。議。を  
中。心。に。サー。クル。が。でき。て。税金。の。向

題 夜間治療の問題、その他と  
りあげてやつていける。また、患者所  
から元氣が回復して、早く私たちが  
を。し。て。下。さ。り。と。い。う。こ。と。も。い。つ  
て。い。る。日。本。は。も。う。自。宅。の。患。者。が  
手。を。と。つ。て。大。衆。的。な。運。動。を。や。つ。て  
ゆ。く。な。け。れ。ば、ち。ら。ゆ。る。問。題。が。解  
決。さ。れ。た。日。に。な。つ。て。い。る。

小島 きの支部に入ることが  
岡本 入らなければはしはらく  
おいて、加盟する人も手を離す  
て一語にやる。協力するといふ方  
向にとりた。その為の援助はほ  
し。ま。く。や。り。た。い。

久納 加盟するたりの今ビの向  
題ととりあげた。い。

岡本 三十円の中十円を払った  
為、親和会の活動がおちる。な。ら  
入。ら。な。い。で。活。動。を。つ。づ。け。た。方。が。よ  
い。や。う。い。う。例。も。あ。る。

小島 悪い病院の場合は、その  
斗争が金もきにも上つて来て、  
日患に入ることになる。や。つ。て。い  
お。り。上。り。が。あ。つ。て。お。り。和。盟。し。て。も  
な。さ。く。な。い。

久納 今ビは加盟側の自由意志  
を認めます  
岡本 勿論認めます  
久納 それでは、二九で、

## 気胸サークル總會開催

本年六月の世論調査の結果、大多数の賛成を  
得て結成された気胸サークルの第一回總會が  
十一月九日午後一時より五十六名の出席者  
得て、織本病院に於いて開催された。  
最初「原爆の子」「山びこ学校」の幻燈上映  
賞し、続いて金子政明氏(気胸患者)の司会  
で、神津先生、福田先生、織本副院長、親和  
会長、加藤龜吉氏の挨拶、出席者の自己紹介が  
あつた。また患者から病院や医師への希望  
(待合室を暖くしてもらいたい、医療費の割引  
等)の意見も提出され、盛大裡に午後五時に  
閉会した。

# 「親和会何処へ行く」

昭和二十六年六月 前 沢 宮 内



## 短期入院制度の申し子

「この世、「親和会」の懇談会やその他で、「新路」

や「親和会」について、アレコレ文句を出しているが、之は、そもそも「親和会」が成長したことを意味しているを解して、それに善んていいことだと思ふ。

「健康会」は十月号にのつた副院長の「短期入院制度と患者のPTA」という記事は、誠に生来九月月だった「親和会」の、一定の論的報告だと思ふのだが、大体「親和会」といふのは、短期入院制度が申し子なだけであつて、短期入院制度が、今こころしこと実施さなければならぬことなどから、単に一種本病院だけではない、一般的に街中の自宅、患者の組織の問題として、そのモデルケースとしての「親和会」をもう一度小くりかえして、その性格より役割より、分種、検討して、必要があるのでなければならぬ。

ところが、その「親和会」の性格たるや極めて、バクゼンとしていて、私のようにならぬには、つかぬところがいろいろある。そこで、一体「親和会」とは何かということに、副院長の記事を中心として、現行の「新路」の記事やを含めてこれから考えを行つてみたと思ふ。

## 「医」指導と「医」社会事業

一に「親和会」というものは、短期入院制度から必然的に生れてきたものであつて、普通の自宅療養会とはちがひ、退院した後の患者の医学的指導と組織的に行うといふことが目的の一つとなつてゐる。この場合は主体は、あくまで医師の側にあつて、患者は医師によつて組織されていくという形である。しかも問題はその、医学的方面に限られる。之は「親和会」の場合、もつともて専門問題で、むしろ、「親和会」は之から出発したのだと云える。且又、今までの「面々」は、結果をあげていくのも此の面ではなからぬ。

しかし、此の問題が、之だけで済まないと、むしろ「親和会」のいる／＼の問題が懸たわつてゐる。副院長は「医」指導は元が元が難しかった、医学的方面での指導は、結局あらゆる生活面でのできごとにつらなつてゆかぬは、ならなかつた」と言つてゐる。

此世で「親和会」は、「医」社会事業にまつたつてゐると思はれて、この「親和会」ができて、前から、病院には医事係があつた。この面でも、数々のすくぬた問題の解決がなされて、また、しかし、組織を通して行つた場合には、色に効果もよるものである。だが、結局この面でも限界があつた。それは、之が結局個人的方法だつたからだと思ふ。これは、社会事業に止まる限り、慈善事業の性格をわけきえず、本當の意味の組織的解決法ではない。善く云へば、対象廣泛の医学的、なものになつてしまふ勝である。個人的には、深い感謝と、小組織の布りな味は理解しなかつた。又その場限りの解決といふことに、なつて、この口、貧民主義的の面が、やはり「親和会」にはついてまわつては、たゞは、たゞだつた。

こゝで、形での「医」社会事業も必要だし、それが「親和会」を通じて、いかに生活動工

「さう」ともりてまいし、しがし、それが「親和会」の組織的、社会的活動の最も主要な部門だとしたり、やはり問題は是れと思つてゐる。

副院長のほう、「親和会」全体が一つの「互立」の社会事業である、と、その見方にも前にのべたよう互立場から及ばず、やはり問題は是れである、と、それが「親和会」の一つの性格であり、一つの「見方」ではあり得くもそれが「親和会」のすべてであつてはならないと思ふ。いふにせよ、以上の場合は「親和会」に組織として「主体性」がないと思ふ。

### 後援会的性格と親睦会的性格

「我」は、改良会的性格がある、さう、その始まりが「病院の後援会」のようなもので、主として「我」が「我」を出発したといふたから、之は自然の話である。だが私たちが患者が「病院の後援会」を作るといふ場合、之は、自由党のホス候補者「後援会」や、ミスター・ハー族の「後援会」を作るとは、自ら異ならなければならぬ。それが副院長が、本際立つて手街がまいからでもなく、病院が個人の生活まで相談にのつてくれるほどよい病院だからでもない、勿論、私

らるが、問題は、今の医学が、単に営利事業でしかない今の世の中にある、真剣に、や結構を生み出した社会に解決してゆく民主主義的、互立の性格を守つて行きたいが、である、此の性格によつて、結構という聖書互立と、医学的、社会的に解決して行きたいからである、だから改良会的性格も、此の辺り意味を正しく理解して、実践にはつきりさせて行かなければならぬかと思ふ。



### 自宅介護者の性格

「オ」に、互助的、親睦会的性格である、之は、どんな組織でも、必ず一歩はうたつていふ事柄である、大した問題はない。

「オ」に、互助的、親睦会的性格である、之は、持て、日悪への同盟の問題となるように、なつており、大きくクロトスアツアツされて来たように思ふ、自宅介護者にせよ、入院患者自治会にせよ、その基本的な目的は、結果患者特有のあらゆる問題ととりくんで、之と斗ひ、積極的に解決してゆくこととすると、ある、この二つの点で、親和会は今まで、はつきりしてはなかつた。

小づうの自宅介護者会や、入院患者自治会

「本質的に異なり」として、「親和会」には、病院、従業員側から多くの人が会員として入つてくる、つまり、患者だけでなく、おつとら親睦互立である、しかし、その中でやはり「親和会」は自宅介護者会として、の機能を果たして行かなければならぬのである、はじめてのべた、改良主義的、社会事業的互立性格を克服してゆく、これが、生み出されて来るのだと思ふ、そこで「親和会」がその問題ととりくむようにとりくんで行くのを知らず、之に、小づうの患者自治会と「親和会」の、夫々の規約のうち、その目的を明らかにする、

「親和会」の目的は次のとおりである。

「本会は会員相互の親睦をほつち、会員の生活上の障害を軽減し、正しい生活を推進することを目的とする。」

之に対して、ある日悪加盟の患者自治会の目的は

「本会の目的は次のことを実施するにある。

- 一 会員の生活生活の擁護と安定向上
- 一 病院内の民主化
- 一 会員の民主主義的文化の向上
- 一 会員の相互の親睦

といふことになつて行く。





# 親和会の行き方について

昭和二十七年二月成彰

野村 武雄

医師の通病は指導に延びて一日も早く結核を克服し、社会生活に大りたいりは、患者誰しもが切實に願うところである。

ところがこの指導の道を囑詞に導かれたいのが大部分だろうと思ひます。長い治療生活による経済的行き詰まりと、それから起る色々な生活困難、住宅、家人の無理解、新設の十月号の古田さん等に至る困難は、



問題の程度と種類が甚だしく患者が

それと見れば、その少しでもり解決なしには、治療を志す者には、白く、前を嚆と思ひて悪条件と斗ひながら治療を続け、一日の病多きの患者の現実をなすか

「新設」十月号の古田さんの意見もこの点を語つてゐると思ひます。更に渋谷さんは「条件に人間を合わせざるがため、人間が生きて居るの条件を作つてあげなければならぬ」と言つて居る。このことは一つには患者の組織の任務、活動の重点に指して居るからであらうが、親和会は一人一人が持つ悪条件に對して是れが足りなかつたのではなからうかと思ふ。

全く患者が安心して治療出来るようにするには、完全な社会保障制度即ち、治療費の國家と使用主による全額負担と家族の生活保証が必要であるが、現在の社会状態に於ては到底望み得られまい。然しこの獲得の斗ひは今後共済、医師関係団体、良心的医師と患者の斗ひの中心の課題であらうと思ふ。

親和会もこれに積極的に関与するべきに、先ず、自分達の能力の範囲内で出来る問題は取上げ解決する為、會員と共に努力するの必要だと思ふ。幸ひ病院病棟（橋本）に於ても医師社会事業係（児島）が設けられ、いま述べた治療の困難を病院が立場から扱つたので、是非協力して會員の悪条件を克服されたらと思ふ。

先除にこの問題にたゞすむもの、回復期に於て患者が、問題の切りから終りて、是を解決するのには至難だろうと思ふ。従つて問題の解決の糸口、或いは斗ひ方法を互に考へてゆく程度でも苦して患者に、助けに成ると思ふ。

従つて私は親和会に生活相談部を設け、日曜、全休診日に、相談に成せたらと思ふ。内容が、生活、医療保護、健康その他、長に用ひて起す、いろいろの生活問題等。

## 短歌

氣にしたるは秋の藤の痛みなど  
 けりか燃りて  
 秋の藤吹く  
 万打れり念徳が万七  
 ひより嘆きて  
 夜千の火桶に炭添えにけり  
 ちと秋の至氣を  
 三尺四方にけり  
 吸ひて其が兒の死に地獄しが八  
 百姓か多くは酒をゆめしとほり  
 もつと困らば  
 何在やゆるらば  
 新しきからたを欲しと思ひけり  
 手討の徳の  
 鹿を鹿でつ  
 道中におと目かぞりて  
 わけもなれなく泣きたるは六りて  
 香団を亦ふれり  
 石川 啄木



# 気胸サークルの皆さんへ

副院長 織本正慶



日さんと

いっ肺切除

後の患者さ

んから昨日

手術をやら

った、それ

には「書」はてあつた。——日

オは肺切除後、面は暗黒(黒)になつた。然し自分は何となく暗々とし

た。何だか自分の病状は然然と七八日、時に口いやな痰も出る。

熱は出ないし体重も減りはしない。何だか気分は重く、今から考え

て一着自分が幸福だと思つた分は肺切除を終つた翌日、まだ傷が癒

へ、苦しい時に先生が来て、「よしさ、今日から培養陰性になつた」

と叫び出した。驚かされたと思つた。と、口を味方した。

もし君は左の肺を下に大きく空洞があつた人で、養料は左の肺形を和

えた直夜は、ガフキー五号と六号とがけりりガガガと二重の音と

も出た。然し術後六ヶ月

もする上黄色の口や痰が出はじ

めた。その中面は暗黒(黒)になり

向も、ガフキー三号位出さよう

になつた。もし君は悩みに悩んだ

死形は彼は書々として青い鳥を小

こに入れたのだ。灰色になり真黒

になつて行つた試である。

もうして一年後に彼も私も肺切

除の決心をかためた。もう一年前

かことにするが遺死空洞の肺切除

は困難だつた。彼が左肺上葉には

つた。一ミリハク離すすおるこ

外村でなくて、は酔らないと思つ

が戦いに勝ち得た喜びと想つて、

手術は五時間過ぎた。お小のた、

さうして君の痰は培養陰性に

入つた。一度一コロニー出た事も

あつた。一七(十七)として又現在痰

が出て、彼が気分を暗くさせるのは

下葉にもわすが、遺死空洞があつて

そこから出るものだ。私は解決し

て、彼の前にも培和

して、輝し、青い鳥をとりて、遺死

した試である。だが八ヶ月後の彼

の手は、どうだつたか。培養陰性

でも彼の鳥籠には輝し、青い鳥は

肺切除後、結核という菌的万

痰をとり、おれた人々は皆こうい

つた。おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

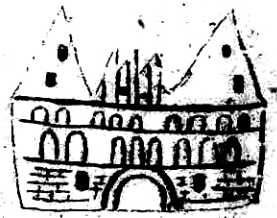
おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは

おれは、おれは、おれは、おれは



浪谷氏の「考えていること」をめぐる  
「新路」才九号の討論について

上北沢予防所 気胸患者

白石 笛 男

私は「親和会」の会員ではありませんが、上北沢の結核予防所の通院気胸患者で、同所「友の会」

あてに送られてくる貴誌を、気胸待つ間に上巻と下巻を、毎月毎月ながらが重畳とした内容を感じ、うげげと心算に感心して来ましたが、私は上北沢予防所「友の会」の現委員では有りませんが、

「新路」が届くのを待ちかねて読むわけにはゆかず、現委員の人が村玉坊主で見たりと読むので、月々これに悩んでもいますし、十月号がもう来ていて、浪谷氏の意見がいろいろ討論がさらに活発化して、このかも知れませんが、上巻も、九月号正一、二のコンマとして私の意見生かされます。

「新路」に於けるこの問題の討論の重要は、さらに、浪谷氏が自ら「養者らしき」を、そして、本病院は自宅「養者」を多く、結びつけ、いこうと口々にいって、ス

里浜病院や清瀬病院で入院「養者」の「養護」の困難との関係に、自己「養者」が「キラル」正しく、大きくフロリスアツプさせようとして、

「新路」に於けるこの問題の討論の重要は、さらに、浪谷氏が自ら「養者らしき」を、そして、本病院は自宅「養者」を多く、結びつけ、いこうと口々にいって、ス

里浜病院や清瀬病院で入院「養者」の「養護」の困難との関係に、自己「養者」が「キラル」正しく、大きくフロリスアツプさせようとして、

て、その結果、ブルジョア作家として、觀念に非常に固執して、私個人も、文芸の世界には無縁ではない、

「苦悩の悲愴な時期を繰り返して、創作」という表現は、独自のなセンス、メンタリズム、私小説のなかに、悲愴さのようには受けとれず、

「苦悩の悲愴な時期を繰り返して、創作」という表現は、独自のなセンス、メンタリズム、私小説のなかに、悲愴さのようには受けとれず、

「世間が甘えるな」という批判は、

作家の持論、視点は、

現代戦争シヤズ的な悪魔的の中、

「苦悩の悲愴な時期を繰り返して、創作」という表現は、独自のなセンス、メンタリズム、私小説のなかに、悲愴さのようには受けとれず、







# 迷路を探ぐる

—— 渋谷氏に答えて ——

昭和二十六年二月 辰形

## 久納武文

「新路」九月号の渋谷さんの

「考えて頂きたいこと」の一文は依然

「辰形を呼ば」下でに数行の批判文

が掲載され、九月の正例懇談会に

も取上げられ、十月号には当の渋谷

さんより再び「考えて頂きたいこと」

が掲載され、更に十一月号には今

貴方と熱心な「友」が「も」罷入り

があるという、誠に賑わいの中に

渋谷さんも定めし本望であろうと

推測して頂いて。

も「も」も「考えて頂きたいこと」

私には「も」も「考えて頂きたいこと」

向題であると思つて頂いて下さる

それは何故このように論議の的に

なつたか、と再び考えて下さる、次の

点にあるらしい。

(一) 貴書と創作活動の関係を白

分の現状に照して如何に処理し

「一」するかと、創作家にとつて重

要な向題を、病氣を治すこと、亦才

なく創作力も、その次だといふ

常識的の方考を、方々承服できないと

して、反駁して頂いて、その理由とし

て、作家の心中に盛り上つて来

る創作意欲や感動といふものは、

医師の指示した安静度の枠内で適

当にコントロールできる、ようにな

るのも、かまはなく、むしろ安静度

の枠を、下すして、創作せざるを

得ない程や、右にや、其れも、か、あ

る、これは、正に、人間の苦悩や、も

か、であり、利鈍性格や、意志の強弱に

よつて、処理できる、も、か、では、ない、と

いつて、頂いて、(一) 渋谷個人、ケース

を、彼自身、懇請、かう、方に、作家、一般

の場合に、下り、行く、といふ、こと、して、

彼の場合、は、喰う、た、に、止、ま、り、得、ず

は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

言、つ、て、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

(二) 更に、渋谷さん、は、は、は、は、は、

さ、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

押、し、進、め、て、社、会、悪、に、沿、つ、た、テ、ク

ラ、メ、の、世、の中、だ、が、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

が、起、ま、る、か、た、と、述、べ、て、頂、い、つ、て、

に、大、き、な、誤、解、の、穴、が、あ、る、と、

× × × × × × × × × × × × × × × ×

「考えて頂きたいこと」の中心点、は、

右、の、(一) に、あ、る、と、思、つ、つ、た、渋谷、さん、の、

創作、上、の、切、な、る、願、い、が、し、ま、り、に、

は、安、静、度、せ、り、か、り、が、形、態、の、見、に、な

つ、て、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

門外漢の私にもわかる、が、結構、患

者、の場合、は、手、術、不、順、調、に、行、つ、て、も

術、師、相、当、期、間、病、氣、を、治、す、こ、こ、こ、こ、こ、

才、一、に、考、え、は、は、は、は、は、は、は、は、

て、他、の、創作、活動、上、に、こ、こ、こ、こ、こ、

も、わ、り、に、下、す、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

平気でいづく／＼總會などに出席で

きる異常な肉體の回復裏りに健康

として「まるで美人様だたいに

る



までにあるた

は「病氣

主治すこ

とではが

才一だとする幾何的万考え方に

日れ和れ若極と及匠正心に携つ

こ正正するこ正正もまきりし

として意欲かたもまきに創作

にかけつて いたうしれいし

かこの夜間もてゝ病狀が悪化し

た一日のこ正正もてはた直徳に

思つたに同時にはり生れ生れも

人様とすつたこ正正も心したか

あつた 秋も或形数十年の歴史が

ら王打た止しはる憂の原則なる

り不知向にも敷しれれれれれれ

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

はられれれれれれれれれれれれ

と家打万有たの文章についでり

類の論議本紙立し万有なるかて

なりが

こ正正もれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

れれれれれれれれれれれれれれ

とととととととととととととと

ただ恋愛の仕立各自の愛辭處に

適応させ、慎重にありりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりり

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

とととととととととととととと

リ、生を死の威しは尚ほであつ、

それ故に右の選明づけの文句七か

ものに一節の委員諸君は、これ上

にかりに飛びついで、廣と生を

同題、に下

まかえたり

或いは渋谷

さん水船れ

でも口は口

同題まつ、

り出して論じたりたりがながに

マアが口上になつた力である、



り返り、迷路に入りこむ、

私は所謂渋谷論議がまだ時が

なれば場合だけのことと推察した

渋谷さん御意見を解決するた

かに、廣と創作を如何に統一

るかとはいふ懇談会、正判欄に附

するよこと、譲れませんが、廣と

恋愛を調和するよりいふ懇談会、

も附けて欲しいといふ人けり、

それに参加する人々は立役者の決

かさんを中心、同じ、芸術家又

は芸術家たりんとする人々と芸術

愛好者までして、そして心ゆく

# 晩秋

看護婦 鈴木 ぎよ子

色あせは浮腫のしむるは

きよしも

かぎりなく暗けりつづまきの術を

マネキンたちは

うつろにはしやま

イヤリング

ネックレース

腕輪、無表情なみんなたちの中、

さよふで幾度目かの

玄關のドアを押す、

アオ……求婚者……健康診断……

布の粘りつけてくる言葉に

気胸の胸をしめつけられながら

水のようなドアにわたしたはからだを

サナトリウムで待つてけるあなへの品も

次々に少くなり

「休養測定日」にうしろ髪をひかれながら

昨日より一冊高くなった王子屋の羽生

ボケツトの中の幾度書きにきりしめて

立去つてゆく

外国の電用トラックがあげる

ほこりの衝を

古にでらつて砂をのみしぬく、

肌にしみる日々丸の風に顔をあげ

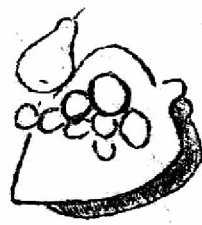
わたくしは、火のようになつたのひとを

抱きしめて帰る。

# 売店三ヶ月間の報告

昭和三十五年十月 成彰

売店部



岡島 誠

八月に十二号までの閉店を改定

して、マニヤが売店閉まされた売

店に、その向い、いろいろの困難を残

して下り、試験期間といわれ、三

ヶ月を、どうやらすま、いよいよ

本道に乗り出した試で、一三三

一は過去三ヶ月の経過と、これより

の問題について少しかべてみたい

と思ひて、

先、小引返、て売店当初の素人

の奇合、右往左往した頃と、比較し

最近、販売に從事する人達も、社

事に、これ、仕入先の開拓も少しづ

つづら、むら、曲り、なりにも売店

の、体、整、え、る、事、が、出、来、ま、し、た

七月の幹事会で初めて売店に關

する事が議決により、親和会

アフターケア施設として、売店を

設けるように決定し、その地上

下、具体的に適当な四人が選ばれ

直ちに売店の準備に動き出しまし

たが、なにしろ四人とも全くの素

人で、高亮のことは何も分らず、結

核の、七月二十日の予定が八月一

日に、なり、それも売店当日は若干

の医薬品、ラムネ、サイダーと

ナリ、紙だけで午後六時、石炭も少

し、人高したけれど、全部で二十四

品目に過ぎず、現在が七十五品目

に比べれば、むずか三分の一の少

なことで、二かようにして、定

した、売店も病院側からの借入金九

千円の中、設備費その他を、五百

五十円、下運資金に、三ヶ月正

控、試、で、下、が、八、月、に、三

千円の高品が、十月には二万円余

も、た、り、取、扱、品、目、の、増、加、と、共

に、止、ま、り、得、た、理、家、と、い、ふ、こ

こ、れ、は、運、轉、資、金、の、二、倍、に、あ、ら、う、綱

々、決、し、て、兼、任、控、で、六、日、事、は

事、業、で、す、こ、の、解、決、に、は、三、つ、あ

り、オ、ー、ト、卸、屋、に、販、販、に、下、氣、の

者、が、事、が、ら、買、掛、金、の、支、払、目、を

控、ら、せ、る、こ、と、で、そ、の、間、せ、つ、せ、二

利、損、を、不、せ、せ、オ、ニ、は、売、上、を、増

加、せ、せ、る、事、で、す、が、そ、れ、に、は、売、上

さ、う、な、も、ち、出、来、る、た、け、多、く、ま、

る、方、法、で、解、決、さ、れ、せ、り、ま、す、こ

こ、れ、は、運、轉、資、金、に、関、係、す、る、こ、と、で、あ

り、早、急、に、は、解、決、は、難、し、く、近、く

行、わ、れ、る、展、望、の、増、大、に、大、目、に、期、待

し、て、い、る、処、で、す、併、し、こ、れ、ら、の、方

法、は、皆、一、時、的、的、對、策、に、過、ぎ、ず、売、店

の、現、状、が、大、き、く、な、る、に、つ、か、オ、ニ、の

方、法、即、ち、資、金、の、増、強、を、迫、ら、れ、る

の、正、當、な、事、で、す、こ、れ、に、は、毎、月、の

利、潤、の、中、小、の、若、干、づ、つ、積、立、を、こ

の、手、段、も、あ、り、ま、す、が、現、在、の、様、に

四、人、の、従、事、者、に、各、々、十、月、正、未、後、費

上、と、い、ふ、に、は、現、在、の、若、干、の、諸、情

状、を、考、へ、て、見、て、は、い、く、つ、の、思、

ひ、ま、す、結、局、は、他、に、後、助、を、請、わ、れ

ば、は、は、ら、り、の、事、に、な、り、ま、す、本

こ、れ、に、は、幾、多、の、問、題、が、あ、り、又、次

の、機、会、に、譲、り、たい、と思、ひ、ま、す、

先、に、書、いた、よ、う、に、こ、の、売、店、が、親

和、会、の、ア、フ、テ、ア、カ、エ、ア、施、設、と、し、て、作

ら、れ、た、わ、け、で、す、が、ア、フ、テ、ア、カ、エ、ア

と、は、即、ち、一、応、作、業、法、を、終、え

し、も、体、的、的、精、神、的、に、適、宜、の、社

會、生、活、王、宮、に、こ、の、出、来、は、い、く、つ、に

達、成、の、可、能、性、は、い、く、つ、に、あ、る、程、度、の、医、学

婦、科、オ、ー、目、的、に、あ、る、程、度、の、医、学

的、管、理、が、下、に、果、実、生、活、を、行、い、生

産、さ、の、他、の、仕、事、に、従、事、せ、し、ま、す、も

の、で、す、が、こ、の、目、的、の、達、成、す、る、為、に

は、一、在、患、者、と、し、て、既、患、者、と、せ、り、行

き、方、に、相、違、が、あ、る、事、は、明、か、に、い

事、で、一、既、患、者、は、そ、の、環、境、や、

行、き、所、の、有、り、人、が、多、く、先、ず、

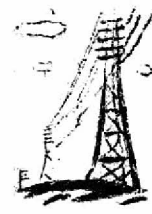
そ、こ、ら、出、発、し、な、け、れ、ば、な、り、ま、す、従

つ、て、自、然、的、に、早、な、ア、フ、テ、ア、カ、エ、

施、設、と、し、て、は、六、六、一、任、居、問、題、の

解、決、に、も、関、係、し、て、永、日、前、に、は





「これこそコロニー的万色彩が濃く  
なるものに對して、在宅患者の場合  
は、起居する場所もはむかひり手  
をりして居り、又副院長も御指摘  
のように、その日だけ絶えず貴社会  
に向けるに  
てして体力  
的に許され  
れば、直ち  
に社会復帰を望んでいる者が多い  
ので、入院患者の場合と異り、施  
設内の人員の新陳代謝が激しく、  
多分に作業方法的な性格を帯びる  
ようになるもので、実際問題とし  
て在宅患者は、入院患者のようにな  
作業方法施設を全く持たないの  
で与えられたアフターケア施設が  
これに代ることは当然考えられろ  
うと云うです。この意味に於いて、  
売店が単なるアフターケアとして  
ばかりではなく、歩行方法を教へ  
社会復帰を待期する期間に、体な  
らしとしてその役目を果し、且對社  
会的訓練を行ひ得るようにつくら  
ねばならない、非常に有意義な

と思ひます。  
ある会社に勤めていた人が、結  
核に罹り、幸ひ手術を行ひ得て、  
約二年間治療の後、復職を願ひ出  
たところ解雇されたという。理由  
は、今迄は、そのように入社後復  
職を認めてはいたのだが、復職後  
例外なく再発するから、これから  
は、復職させないことにしたので  
と云うので、結核患者と再発の  
問題は、どこでも聞かれ、又それ  
が当然のことと思われれているの  
が現状で、この悲劇をなす為にも  
アフターケア施設の必要を生痛感  
します。  
結核患者の多くに對して、労力  
量を徐々に増加し、通常の社会生  
活に耐え得る迄にして、社会に送  
り出す様に出来れば、再発の危険  
を皆無に出来なくとも、その平  
正著しく減少せしめる事は可能で  
この小さな売店でも、従事する四  
人が異同音に、八月からやつて  
一日、体力に相当の自信を持つ事が  
出来たと云つて居り、その中の一

人井上さん、売店としては、初  
めての卒業生となり、先日のめでた  
く就職し、元気にやつて居る由で  
す。  
私の場合も、初めはすすまらね  
たものの、全く体力に自信が無く、  
疲労も激しかったけれど、最近  
は安静時間も殆んどとらず、毎日  
自転車で来たたり、電車を利用し  
たりして遊び回つて居り、近々就  
職しようと思つて居ります。この  
向ひが三ヶ月でこのように体力  
に自信を持つようになつたこと  
は、私自身驚いて居る始末で、若  
し売店がなければ、現在未だに家  
に引込居るに臥して消極的に回復  
を待つて居たに違ひない。事を  
考へると、誠にアフターケア施設  
の有難さを感じて居ます。  
売店が今後の在り方について、は  
先に述べたように、作業方法的な  
アフターケア施設として益々発展  
させなければならぬ事は、当然  
です。勿論、これだけで終るも  
のではありません。この小さな売店を強

損益計算書			貸借対照表		
借	貸	増減	借	貸	増減
諸品費	1,212		現金	300	
消耗品	749	1,220	貸入金	1,100	
印刷費	570		買入金	17,117	
交値	3,017		物品基金	18,2	
支利息	1,314		運付高	2088	
支利息	270		現金	510	
支利息	116,555				
支利息	10,720				
	1,220	1,220			
		1,220			

# 健康保険三年に延長か

その陰に給費打切の恐れ

社会保険審議会に  
て出された厚生  
省案の大要は次の  
ことである。

- 一 厚生年金保険に  
ついて、
- 一 標準報酬のウ  
ツを現行二十円  
一十八円を  
三十四・三円  
六十円に引上げ

- 二 厚生年金積立金を現行  
の五五才から六十才に引上げる
- 三 厚生年金積立金六百億円を被  
保険者の福祉事業に転用する。

- 一 従来の給付期間二年を三年に  
延長する。
- 二 診査費の二割を国庫負担にす  
る。
- 三 七に上げられた改正案はあくま  
で案であり、また厚生省内部にも  
いくらかの可否、懸念が論ぜられ  
ておる。

の審議会ではこの厚生省案が発表  
されたに過ぎず、二日に開する討  
議は次の審議会までのはざれるが  
大巾に改善されたと見るべきこと  
改正案もとくに健康に布いては診  
査制、給費は自己負担の一部負  
担金の拡大などの方法により、そ  
の適用者は小なり、制費が和えら  
るに思ふべきであろう。ことに健  
保適用三年延長のことは、厚生  
省者の下具案、正三年に延長する  
ことには短しとし三年を基に上り、  
この又出ま動こうとするも、だこ  
の見方が強くなつてくる。

社会保険医会、吉田秀  
夫氏、健康保険の医へ給付、及  
び給費手当金給付は三年に延長す  
ることには堅固の努力組合として、は  
現行の国庫負担のウツ内でも最優  
の要求をした。今回の改正案がも  
し施行せられし、も、も下り、ん  
給費給付は打切、その他の方策に  
よつて患者の生活は苦しくなると  
思ふのが常識でしょう。(健康雑誌)

の審議会ではこの厚生省案が発表  
されたに過ぎず、二日に開する討  
議は次の審議会までのはざれるが  
大巾に改善されたと見るべきこと  
改正案もとくに健康に布いては診  
査制、給費は自己負担の一部負  
担金の拡大などの方法により、そ  
の適用者は小なり、制費が和えら  
るに思ふべきであろう。ことに健  
保適用三年延長のことは、厚生  
省者の下具案、正三年に延長する  
ことには短しとし三年を基に上り、  
この又出ま動こうとするも、だこ  
の見方が強くなつてくる。

# 朝鮮に平和を

昭和二十六年四月足形 福井 善久 男

朝鮮は、  
メチヤ、だ  
町も打ち、埃野原に及つた  
病人、未ん切、疾、  
何日万の人々が死んだ  
それでも  
また爆撃している  
ナバーム  
ぶさろし、爆撃  
一町四方、焼盡くすといふ  
そのナバーム全  
日本人が作つてける  
が、なんた、ことが  
戦争の手助かと  
ナバームを落してはけけけ  
日本から  
B29を飛ばすな  
労働者よ  
軍需生産をやめろ  
農民よ  
田や圃を基地にさせるな  
青年よ  
暴兵に及るな  
根よ  
愛人正戦線へ送るな  
日本のことは日本人に

朝鮮のことは朝鮮人に  
ナバームを任せよ  
民族を尊敬し、抑圧するな  
古くは、  
イランの石油  
エジプトのガスエス運河  
ヴェトナムの民族解放戦争  
南アフリカの人類を別テツバイ  
黒人の人種宣言  
怒り、世界中に燃発した  
自由、平和、独立  
の歌声よ、  
原爆の犠牲者  
日本人は  
「原爆反対」を叫べ  
非人道的な  
細菌戦は、禁止すべきだ  
として、  
朝鮮に平和を  
朝鮮に平和を



# 復転の記

昭和五年四月 藤原 登善夫



私は千  
 六約一年半  
 で勤めに出  
 掛ければ九  
 分九厘はた  
 だけは傷病  
 手当金不

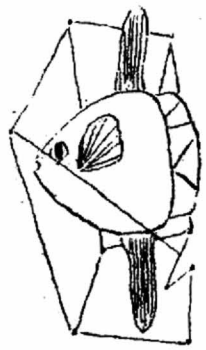
四月一杯で打ち止りされたので、支店  
 長を通じて、診断書を出して、本社  
 へ復転願を出した。本社より毎半  
 人仕の各患で学病院の検疫員身体  
 検査せよ、その上で復職を決定する  
 ことになったので、早速慈恵病院  
 へ検査してもらった。そして身体検査工  
 業に出かけた。培養は毎月約不  
 適症でやめてくれたので、安心はし  
 ていたが身体検査と云うところがよ  
 く不安だった。血沈、透視、それ  
 からは上半身裸になつて、先ず指を  
 折り教へ、次に腕を上下左右前後  
 と軽く動かして見て、腕をまわす

と大きく廻して見た。異常はなかつ  
 た。約一ヶ月すぎに復職差支えなし  
 と診断された。此の時、福本先生に  
 手術してもらつたといひれた時と同じ  
 ように不調した。右側急性肋膜炎  
 工で、それから、左側成形ではまま  
 らしよ、と福本先生に言つたことになり

私は左側は本切りの。予想以上に  
 結果は良かったが、傾いたと大事を  
 取りつけたのが、手術側は腕は、小  
 平位に上るのや、とであつた。  
 左が痛く、口へ両手を揃えて、腕の方  
 へ斜めに延びして、丁度腕全体を  
 やつて、肩の下を姿勢に力るが、これ  
 左側がから一日に数回延びしては元  
 にもどす。これをやつた下で、腕が  
 延びたりし、痛物まわして、兵古帯  
 も一人で結ぶのがつたか、自由  
 に腕を使えるようになったので復職  
 にも、よく影響したりが、知れな  
 出勤は五月一日からとするように、

通知をうけた。定時は九時の  
 端りは五時五分のたが、初めは  
 五分、遅刻早速と認めてもら  
 した。通勤は中央線を利用して  
 浜松町まで、家から約一時間不  
 かつ。

初めの内は遅刻して行つて  
 五分早うござります」といふの  
 も、軽々としたが、だんだんと日数  
 がたつにしたが、遅刻する  
 ち、千石二時頃かたまり、毛  
 平にかけて来て、強音がなかり  
 しい。長く仕事をするように  
 する。長い間、家に眠たり起つた  
 りして、切りの内は、  
 べつたが、馴れたせいで、  
 べつたが、比隣は遅刻はするが  
 五時までは仕事して、  
 健康は近々三年使えるように  
 なるらしいが、健康や、生活保  
 護法の給付につけては、余り知  
 らない人が多し、よく調べて  
 有効にうかうようにしたい。  
 その点、健康全講には病状  
 の相談や、健康、医療の相談や



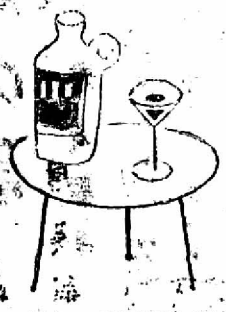
「おれは、おれは、又千紙を出せ  
 ば、質問にも返事をして、  
 言葉は話では一番よいと思ふ。  
 私の知人に、初期のうちには治り  
 会社に出るが、毎週一回、何  
 かの注射を会社の医務室に、  
 だ、自分では、その注射を河  
 役に立たないことは承知して、  
 が、自分は来た病人だ、  
 症と云ふは、自分と、まわりの人  
 人に、まだ治り切れていない  
 だと言ふ、させるか、  
 良の考えだと私は思つた。  
 人間は苦しかった事も、昨日  
 たつと、ついでに、  
 此の病は、相当長い間、  
 だ、また、養中た、  
 比下に、無理をしない、生活  
 する事が必要であると思ふ。



「ほんとうがその氣胸をしないので絶  
 体安静だけで癒りませんか」と聞  
 いては、彼も又私達に押通に入  
 り、一語に希望で御飯を食ふ、い  
 たが氣胸日に成ると朝食を半分以  
 上残して来た。これなら又ささお  
 るがと思、上食慾も回復する上こ  
 序も上げた。その日、世草野見の  
 海、自覚症状が、おの、女部屋の  
 左側から入、して、いたが氣胸三ヶ  
 月位で無効な事、有利り、成形術に切  
 り決えられた。その時は、夜も  
 寝られ、心配し、成形術をやった  
 人が、面を、受、いて、廻、り、どの位痛、口  
 不、に、面、いて、いた、い、が、二、三、日、近  
 く、や、せ、た、痛、い、と、い、ふ、心、不、に、け、り、手  
 術、が、行、わ、れた、一、週、間、後、彼、が、昨  
 日、東京、に、行、く、と、別、と、元、氣、な、た  
 が、相、交、り、下、痛、い、ハ、ハ、の、連、発、で、  
 傍、に、いた、有、護、護、さん、が、今、迄、成、形、術  
 を、受、けた、中、で、こ、う、な、痛、が、り、や、さ、ん  
 け、無、かつ、た、と、云、つ、て、いた、二、回、目  
 を、や、つ、て、二、ヶ、月、位、で、部、屋、へ、帰、り、て、  
 来た、が、お、帯、の、も、も、か、え、に、来、る、度、に、  
 痛、水、の、下、した、手術、は、成、功、して、あ

「一回復をまうだけ」といわれては  
 だが、ちつとも太らな、先生は  
 「その人、口、氣、が、小、さい、から、手術、の  
 ショックで、御飯、を、た、り、な、り、お、ら、太  
 ら、な、り、だ、し、と、云、つ、て、いた、が、果  
 しく、私、が、退、院、して、一、年、近、く、た、つ、た  
 此、の、痛、み、手術、で、太、り、だ、し、ました、と  
 言、い、て、来た、を、私、に、見、せ、つ、て、彼  
 も、手術、の、シ、ョ、ク、を、忘、れ、て、きた、の  
 だ、と、い、つ、て、り、て、は、微、笑、が、も、れ、て、  
 きた

「五、ヶ、月、か、一、年、か、私、が、私、が、本、病、院、へ、  
 氣、胸、に、通、り、出、した、時、此、処、り、先生  
 に、江、笑、わ、れ、な、り、し、よ、う、と、思  
 っ、て、いた、が、や、は、り、二、年、以上、も、続  
 け、て、いた、の、に、今、だ、に、い、び、く、して、  
 私、が、顔、を、見、せ、ると、こ、の、人、は、痛、水、  
 り、や、た、ら、し、と、い、つ、つ、と、笑、わ、れ、  
 よ、う、に、な、つ、て、しま、つ、た



織本病院  
 野球チーム結成

至 井 中 局 業

九月に入り約数の太陽も、ア、ア、  
 に、その、光、を、和、ら、げ、天、高、く、馬、肥、由、る  
 ス、ア、ア、ツ、の、秋、来、る、と、井、に、青、香、の、血  
 潮、に、燃、ゆる、其、が、織、本、病、院、に、も、依、然、  
 野、球、熱、高、まり、副、院、長、の、肝、声、に、一、致、  
 団、結、野、球、チ、ーム、編、成、対、中、野  
 区、医、師、会、の、オ、ー、ナ、戦、生、皮、切、り、に、聖、母  
 病、院、中、野、組、合、病、院、と、連、戦、こ、れ、に、  
 聖、母、部、下、医、生、由、休、野、球、大、会、に、は、  
 聖、母、準、決、勝、に、駒、進、進、の、た、う、も、対、豊  
 郷、区、医、師、会、の、一、戦、は、最、終、回、の、必、死  
 の、決、闘、も、空、しく、三、打、り、で、惜、敗、遂、  
 に、優勝、の、長、蛇、を、迎、え、ました、ラ、ッ、  
 野、球、會、は、来、春、を、期、して、派、切、つ、て、  
 昌、リ、チ、ーム、を、編、成、和、会、の、首、で、ん、  
 の、選手、は、御、代、表、の、格、を、下、願、い、し、  
 ます、高、チ、ーム、カ、メ、ン、バ、ー、を、御、紹

副院長、投手、杯歴は古  
 く、遠く、イ、ン、ター、イ、に、か、ける、神、宮  
 の、名、選手、絶、妙、の、コ、ン、ト、ロ、リ、に、  
 操、り、曲、り、曲、り、鋭、い、オ、ー、フ、は、端、脚、す、  
 て、不、可、算、の、ち、あ、り、チ、ーム、の、大、軍、柱  
 △ 内山先生、投手、カ、メ、ン、バ、ー、を、  
 ト、に、か、え、つ、て、感、動、一、の、功、功、味、た、る、  
 公正に成形手術に於けるが如し、  
 △ 尾花先生、外野手、ア、ア、ツ、の、真、  
 しく、大、き、な、久、年、シ、ョ、ク、の、真、  
 中に、当、打、打、本、に、な、ら、ん、で、あ、る、こ、し、  
 江、國、達、り、及、び、し、よ、う、と、云、つ、て、  
 内、助、の、功、に、よ、り、益、々、内、助、味、を、知、う、  
 △ 平野君、投手、兼、外、野、手、  
 榮、林、ビ、ン、チ、ヤ、菊、野、十、七、才、の、少、手、  
 投手、若、く、に、委、せ、て、良、下、代、速、球、  
 を、し、て、さ、り、く、舞、を、せ、る、我、チ、ーム、  
 の、持、真、な、存、証、△ 中、井、補、手、  
 預、備、打、好、守、好、走、  
 已、宣、伝、に、な、り、ま、す、な、ら、ま、す、  
 以上、か、通、り、で、す、が、他、に、も、澤、田、未、澤、  
 博、野、原、斎、藤、君、の、諸、君、の、御、力、を、  
 支、援、を、し、て、こ、こ、に、は、再、も、し、し、限、り、で、す、



東宝の「生きる」を中心に

# 映画座談会

出席者 長尾夫妻 秋山先生  
中井兼利士 山崎有慶子  
小美野道子  
出 清田 大村 堀田

## ストーリー

市民の苦情原因たる市兵隊の課長が胃癌と判り、頼み、人回し、生きる方を生しなかつたこと、飲米の巻工歩、が、満足しなけり。たまたま評議した若日女性の生命力を暗黒まうけて発心し、富良野街の水溜りに小公園に集える事業に専心する。公園が完成した時死の役所の人々は彼が行進に感動する。水曜日より旧態依然といふ作品、本に帰つて、息子夫婦に冷遇され、

堀田 最近の面白かつた映画に、ついで語り合ひましょう

秋山 生きる、が一番良かった

たけ 胃痛と診断された時の主人公(志村高)の演技は忘れられぬ

大村 映画に出て来る癌カレントゲン写真が本物ですか?

秋山 本物です、有力症状では、たけがに絶望的だ、外果患者(渡辺篤)が「肉が食へる気がなくなつて、ゲツツが出るといふ」セリフが、あつたけれど胃癌の症状を適切に表わして、いい

清長 主人公が癌と診断され

秋山 主人公が癌と診断され

るシーンには色々と考えさせられた

事務長 ひとりてフトンと敷いて、眠る時計をかけた、男やもわり悲しさがよく出ていた

寺山 主人公が悲しく、役所が若い女性(小田切友喜)と交際して、死に不生来めようとする場面も良かった

清長 若い女が主人公の悪知話

堀田 親に犠牲になつて、上頼んだわけではなかつた

秋山 主人公があつちの村を去る

蓋して町の子供たづのたけに公園

王作つて、完成した後死んで行く

ラストシーンも良かった

事務長、チャップリンの殺人狂時代は軽け調刺に止まつて、いるけれど、生きる、は、かなり深刻に役所生活を描写して、いい

堀田 二つの向、中国映画の、白人、工員だ、は、けり社会のテーマとして、生きる、には物足りなさも生れ、来た、た、上、え、け

役所工辞めた若日マが工場に満足して、初は、い、る、よう、に、隔、て、い、る、点、が、ん、が、で、

大村、それ、は、下、分、分、点、は、あ、る、が、も、知、れ、な、い、け、れ、ど、優、れ、た、映、画、だ、

堀田、私は、生きる、は、見、な、く、つ、た、け、れ、ど、茶、漬、の、味、を、見、て、

一、す、面、白、か、つ、た、

小美野 私は、誰、が、た、だ、に、強、い、鳴、り、を、見、た、

事務長、玉茶漬の味、は、生活、が、ら、離、れ、て、い、る、日、今、千、の、映、画、で、は、山、で、二、三、校、が、一、番、良、か、つ、た、

清長、あ、た、し、は、山、で、二、三、校、を、見、た、時、に、は、日、分、り、田、舎、の、一、工、考、を、て、匠、さ、く、涙、が、出、た、

事務長、あ、あ、い、映、画、を、話、ら、な、い、と、い、う、人、も、案、外、い、る、ん、だ、

大村、映画王生活からの逃避、た、い、に、し、く、な、つ、て、い、る、

中井、原爆の寸、は、良、か、つ、た、

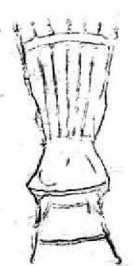
大、キリスト教令のシーン、は、良、か、つ、た、

事務長、二、の、上、二、三、の、生きる、箱、

原爆の寸、等、良、い、映、画、が、出、た、

仕事之余儀に、優、れ、た、映、画、と、な、り、生、活、の、裡、に、テ、

事、は、大、切、な、



ライオンが、皆んなを追いやりつた

「ウム」

労働者は、監督官とホアーマン

吉田を睨みつけた



(二)

休む時間にならぬと、皆んなグツグツ疲れた体  
至、防火貯水罐の芝生に腐たえ

「おたし、ピツクリしたわ、こゝこゝ」

「三三白粉がら我れた、く、く、く、」

「こゝも苦しうたつたのよ、休んたらつ、云つたら、休むと目に力

るからつて、とくち心配していらわ」

緑川啓子は目なうるすせと云う、

今年十八の歳盛りを、油で染みた

作業衣に包み、日焼けした浅黒い

顔は意志の強さに輝き、引きしまつ

た身体は力強ま、感ぜる類もしい

娘だ、

「ウ、ン、ヤ、ン、カ、ハ、は、さ、つ、ま、し

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

云つてたづけ」

内田はホツリと云つた

「青山さん、ほんまだスツオリよく、

つて、い、い、い、の、に、出、て、ま、た、か、よ、

ら仕事を変えて、もつても無理し

休むと言だ、なん、ア、ン、マ、リ、だ、わ、

みんな会社の責任よ、

啓子も憤りながら云つた、

「青山さん、だつて、もつと、すつ

かりよく、なるまで、休むつもりで、

いたんだ、それがお務課から、長で

者は軍のお、お、うるさいから整理す

ると云われたら、肺結核がまた

治り切らないのに、あわてて、出

ましたんだ、休むと言だ、なんて馬鹿

にしてや、お、青山さん、だつて、

何も好き、この心で、出て来、ん、じ、や

ない、会社、ヒドイ、ヒドイ、こと、し、や

がる、

中村は、会社の非道に憤慨した、

「お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

太つた文さんが、顔を鼻赤にし、

怒つた、

「こりや、あ、人、こ、こ、こ、あ、ない

ぞ、

「さん、さん、使、わ、れ、て、よ、病、気、に

なりました、ハイ、首、ち、や、い、が、な

わ、ね、い、近、頃、の、よ、う、に、ソ、レ、ヤ

レ、レ、レ、で、追、い、ま、わ、さ、れ、た、ん

ぢ、や、い、大、い、が、ら、た、も、悪、く、す、る、か

ら、な、

軍や、会社から、「共產党」と睨

ま、れ、て、い、る、青、年、活、動、家、協、田、は、

セイオンに頼り、目玉光らせて話

す、

「軍需生産だ、なんて、ろくでもね

え、安、い、給、料、で、俺、達、の、生、活、に、は

養、の、役、に、も、立、た、な、い、で、大、殺、し、の

兵器、なん、が、な、さん、さん、コ、キ、使、わ

れ、て、作、つ、て、よ、それ、で、お、ら、た、至、悪

く、す、れ、ば、今、ヨ、ン、だ、な、ん、て、さん、百、萬

鹿、げ、た、こ、と、が、あ、る、も、ん、が、それ、で

又、何、を、云、え、ば、二、言、目、に、は、軍、だ、

「これ、が、吉、田、政、府、の、承、認、し、た、知、解、と、信

頼、の、調、和、條、約、の、正、体、な、ん、だ、

か、だ、ま、つ、て、ち、や、あ、い、け、れ、ぬ

皆、ん、だ、で、平、知、の、鳥、に、斗、う、し

皆、ん、だ、の、目、は、燃、え、て、い、る

魔、の、子、を、取、ら、え、い、

「ようし、ようし、う、う、う、う、う、う、

皆、ん、だ、の、力、強、く、立、上、つ、た、

——、——、——、——、——、——、

● P、R、I、工、場、と、は、軍、と、契、約、の、軍、需

生、産、工、場、の、こ、と、を、云、う

● ラ、イ、ン、は、流、北、作、業、の、ロー、ラ

バ、ア、リ、ン、グ、式、コ、ン、バ、ア、を、俗、に

そう、呼、ぶ

● ミ、ツ、シ、ヨ、ン、と、は、自、動、車、の、伝

動、調、節、室、の、こ、と、

### 人事異動

☆ 看護婦増田ハルミ君転勤のため休職

☆ 看護婦 鈴木きよ子 沢田又子君を採用

☆ 病院医、社会事業係として、

姫田武夫君を委嘱

布しらせ、病院は今年中に約十床

の増築工事をおこないます

# 検疫成績表

(十月分)

津田和子	九五	二週一K
法谷 修	八七	六週一K
藤本 昭	八三	六週一K
鈴木平次郎	八一	六週一K
松浦正良	九八	四週三K
川上よめ子	九八	七週四K
小野塚隆夫	九八	六週一K
松田正雄	九七	六週一K
鈴木七太郎	九三	四週四K
十不長晴宣	九三	四週二K
小野塚隆夫	九三	四週五K
花田末松	九三	四週一K
森三樹子	九三	五週一K
相沢芳子	九三	四週四K
津田和子	九三	三週七K
相田	九三	三週五K
芝田信夫	九三	三週五K

● 活養陽性者氏名

藤本 昭	十二	二週二K
吉田静子	十四	四週二K
津田和子	十四	三週四K
小野塚隆夫	十四	三週四K
内山貞雄	十四	三週四K
岩本元子	九八	六週四K

● 疑患者氏名

今沢八州男	九月十七日
島田惣吉	九月十七日
津田和子	九月二十日
石原實美子	十月十四日
平沢花子	十月十四日
高橋加一郎	十月十四日
(註)	
種田正雄	結核菌以外の菌が主之原因として之は無効ですから至急もう一度お持ち下さい。但しこの場合は無料です。

● 培養陰性者氏名

八月十五日	十月十五日
松田隆	鈴木柳
赤坂	小園
伊勢	野口
	矢部
	平塚

近田	尾崎	飯塚	中根
吉田(傳)	和藤(傳)	宮沢	
辻	佐藤(一)	伊藤(傳)	
金沢	花尾	岡口(傳)	
岡口(傳)	小林(傳)	吉田(傳)	
広瀬	田村	近藤(傳)	
中野(傳)			

● 疑患者氏名

八月十七日	十月十七日
増田	コジマ
金森	堀内
坂谷	失島
箱根	服部
松本	新井
福井	永井
石田	土屋
藤原	植松

八月三十一日	九月三十日
伊藤(傳)	鎌田
山本	浅子
近田	浅海
辻	小島
宅森	金森
鈴木(傳)	

● 疑患者氏名

九月八日	十一月八日
今井	杉野
鈴木(傳)	長田
山本	佃
二島	藤原
廣山	大木
湯井	石沢
金	広瀬

## 人事異動

新しく入り方が病院に勤務しました。ヒラでよろしく。

医師 石垣 堅吾  
看護婦 大内 せつ子  
炊事係 船本 小じ子

## 分院計画その後

清瀬村に結核外科病院の分院を建てる計画は、その後、資金面がゆきづまり、未だ完成していません。ただ、足がかりとして敷地千五百坪を購入しました。場所は清瀬村国立東京広業所業、保養園に隣りです。本院増設も、一切を分院建設に集中するため見送ることにしました。

## 病院月報

胸部成形術	二四名
肺切除術	四名
虫垂切除術	六名
其の他手術	五名
入院待機患者	三九名

十月の活動状況





# 親和会日誌



● 新入会者(氏名住所)

(十月五日(十一月五日))

- 中野区 伊藤 康子
- 中野区 稲葉 宜子
- 市川市 小島 豊又
- 大塚区 鈴木 敏雄
- 豊島区 野村 病院
- 品川区 手門 三代司
- 品川区 林 米子
- 豊島区 廣瀬 知恵子
- 豊島区 野村 病院

## 新宿区

望月 光代

## 新宿区

山内 宏輝

十月十二日

幹事会開催(左の議題討論)

☆ 親和会で三ヶ月以内の

滞院患者を見舞うことに

院患者を各区分けし、表立

作り、その区に住んでいる

元気が悪者が見舞に行く形

をとった(見舞い等の意見が

あつた)

☆ 日恵加盟の件

幹事会として(賛成とな

り、近々総合で決定するこ

と、売店を玄因に出すこと

☆ 病院理事会に

病院理事会に

病院理事会に

病院理事会に

病院理事会に

病院理事会に

病院理事会に

## 売店拡大の件

アフターケアのオーパス

して、売店を拡大を

せるために、カンパ資金

を募集することに

記の委員を

タリケア実現のために

一歩前進することに

委員 氏名

伊藤 道子

安藤 定美

又納 武文

長尾 事務長

堀田 武夫

☆ 資料整理の件

『暮らし』に必要の資料

(政治、経済、心理等)

を整理することに

責任者として、大村さん

が担当することに

決まりました

## 原稿募集

小説、日記、詩、短歌、俳句、川柳、笑話、生

活記録等、何でも結構です

原稿は四百字詰め縦用紙で下願ひ致します。編集部

に申し出て下さい。原稿用紙は下送り致します。

締切日は毎月二十五日です。

(編集部)

## 後記

朝早い季節に

がたがた参りました

たが、一冬は

二更に寝る上

が、お互に親切

に、準備して行きた

もので

今日号は、親和会が在

り方、正務長が

健康保険の給費が前

れるので、いろいろ

噂が聞えたり、肺病後

の耐添看護が二週間し

認められなくなり、つ

る現在、ますますの親和

編集者 堀田 武夫

大村 良子

表紙 宮田 菜一

印刷 板谷 忠雄

製本 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

印刷 板谷 忠雄

森永

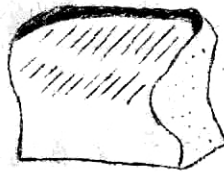
海老沼牛乳店

中野区上高田一ノ二一八

お子様には

スガイのコレットを

各種菓子ハン製造



須貝正商店

中野区新井町五二七

電話 中野 (33)

03-335-1111

薬品と衛生材料

誠 実 と 勉 強

卸 値 で 提 供

輸 入 と 国 産



中野区昭和通 2-32番

アサヒ薬品店

電話 中野(33) 4733.5233

電話でお問合せ

すぐお届け致します